

科 目	マナー実践	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	ビジネスリファイン	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人として国際的に通用するマナー、冠婚葬祭などの日本の礼儀作法を習得する。 本授業は表現学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	マナーの知識を習得し、社会人として信頼される振る舞いや心遣いを身につける。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るため、授業内課題、定期試験で評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション ( マナーとは何か・マナーを学ぶ意義 )	マナーとは何か考えてくる	
2 .	第1章：マナーの歴史と意義	日本・西洋ノマナーの歴史をレポートにまとめる	
3 .	第1章：マナーの歴史と意義(異文化コミュニケーション)	異文化に接した自分の体験を発表できるように準備する	
4 .	第2章：国際人としてのプロトコール(プロトコールの原則と具体的な席次例)	テキストの席次についての箇所を読む	
5 .	第2章：国際人としてのプロトコール(社交の場でのコミュニケーション・挨拶と紹介)	社交の場での好ましい話題・好ましくない話題を考える	
6 .	第2章：国際人としてのプロトコール(国旗の扱い・異文化コミュニケーション)	テキストの国旗の箇所を読む	
7 .	第3章：社会人に必要なマナー(好印象を与えるコミュニケーションとは)	第一印象を決めるものについて考えてくる	
8 .	第3章：社会人に必要なマナー(言葉遣い)	3種類の敬語の使い方をまとめる	
9 .	第3章：社会人に必要なマナー(聴き方・話し方)	上手な聴き方・話し方のポイントを考えてくる	
10 .	第3章：社会人に必要なマナー(礼装の基準)	TPOに分けて服装を表にする	
11 .	第3章：社会人に必要なマナー(喜ばれる贈答)	袱紗の取り扱い方を練習する	
12 .	第3章：社会人に必要なマナー(手紙のマナー)	実際に手紙を書く	
13 .	第3章：社会人に必要なマナー(まとめ)	第3章までの定着を図るための復習をする	
14 .	第4章： ビジネスシーンのマナー(ビジネスマナーの必要性・名刺の扱い方)	会社組織について概略をまとめる	
15 .	第4章までのまとめ(到達度確認テスト)	前期の到達度を確認する	
教科書	マナー&プロトコールの基礎知識(NPO法人マナー・プロトコール協会)		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (10%) 授業内課題 (30%) 定期試験 (50%) 授業内発表 (10%)		
特記すべき 事項	マナーを身近なものとして学ぶため、実際の経験や意見を発表していただくことがあります。また、レポートなどの課題を出すことがあります。		
質問・相談 の受付			

科 目	マナー実践	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	ビジネスリファイン	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人として国際的に通用するマナー、冠婚葬祭などの日本の礼儀作法や心遣いを習得する 本授業は表現学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	マナーの知識を習得し、社会人として信頼される振る舞いや心遣いを身につける		
学習成果の 評価基準	マナー・プロトコール3級検定の取得を評価する。 到達目標の達成度を測るため、授業内課題、定期試験で評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	第4章：ビジネスシーンのマナー（来客対応・ビジネス文書）	ビジネス文書を実際を書く	
2 .	第4章：ビジネスシーンのマナー（まとめ）	ビジネスマナーの定着を図るため 復習をする	
3 .	第5章：食事のマナー（食事の作法の基本・和食のマナー）	各国の食事に使う道具について調 べる	
4 .	第5章：食事のマナー（和食のマナー）	自分と家族の箸使いをチェックす る	
5 .	第5章：食事のマナー（和室の作法・和食のまとめ）	和室での作法をレポートにまとめ る	
6 .	第5章：食事のマナー（西洋料理のマナー・各国料理のマナー）	各国の料理の特徴の違いをまとめ る	
7 .	第5章：食事のマナー（まとめ）	食事のマナーの定着を図るための 復習をする	
8 .	第7章：「冠」のしきたり	発表を前提として通過儀礼につい ての経験をまとめる	
9 .	第8章「婚」のしきたり	祝儀袋の使い方を復習する	
10 .	第9章：「葬」のしきたり	テキスト中の難解な言葉を調べて くる	
11 .	第10章：「祭」のしきたり	発表を前提として年中行事の経験 をまとめる	
12 .	冠婚葬祭のしきたり（まとめ）	定着を目的として冠婚葬祭の復習 をする	
13 .	冠婚葬祭のしきたり（まとめ）	冠婚葬祭について各自の考え方を 発表する	
14 .	マナープロトコール一年間のまとめ（到達度の確認）	到達度確認のための試験	
15 .	マナープロトコール一年間のまとめ（検定試験およびレポート）	一年間の総復習と検定試験	
教科書			
参考書	マナー&プロトコールの基礎知識（NPO法人日本マナープロトコール協会）		
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 授業内課題（30%） 定期試験（50%） 授業内発表（10%）		
特記すべき 事項	マナー・プロトコール3級検定全員受験（必須） 発表やレポート課題を出します。必ず準備・提出すること。		
質問・相談 の受付			

科目	インターンシップリテラシー	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	セレノ・コーポレーション	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	好きなことを仕事にしたいという気持ちに、自分自身の目標をたてて、それに向かって努力することができます。社会人意識を持った人財、豊かな感性・理性を持ち、それを表現できる人財、変動する社会に対応している柔軟性と知識・技術を持った人財を育成します。本授業は、表現学科の学修成果(3)に対応する。		
到達目標	人間の内にある思考や感情を省察し、自己発見、自己分析のなかで自表現方法の習得、社会人として必要とされる技術・人間力を修得することができます。		
学習成果の評価基準	学習に対する取組姿勢や課題提出、授業内容の習熟度を評価します。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	学んだ内容を振り返る	
2.	自己分析(過去の自己分析シート作成)	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
3.	自己分析(過去・現在自己分析シート作成)	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
4.	SWOT分析自分の強み弱みを分析	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
5.	自分史を作成・オリジナルストーリーの作成	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
6.	Web集客と法律	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
7.	動画の取り方基礎	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
8.	動画編集基礎	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
9.	動画制作と自己表現	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
10.	動画制作と自己表現	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
11.	オリジナルオーディション動画作成	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
12.	自己マーケティングとブランディング	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
13.	プレゼンテーションとは	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
14.	成果発表	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
15.	感想と課題発見	復習:学んだ内容を振り返る 予習:授業内容の下調べを行う	
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	取組姿勢(40%) 課題(30%)(提出期限を含む) 習熟度(30%) 60点以上で合格		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。 高橋早紀(NHKキャスター、民放アナウンサー歴有り)池田直哉(WEBサイト制作に従事)時津宝生(アプリ開発会社取締役)		
質問・相談等の受付			

科 目	インターンシップ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	インターンシップ現場での体験は学びを深いものにしてくれます。これまで抱いてきた職業に対するイメージをより鮮明にするとともに、これからの方向性を確認しましょう。学ぶ姿勢は意外な適性に気づかせてくれるかもしれません。 本授業は表現学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業に対する理解を深め、就職をより身近に捉えることができる。</li> <li>・社会人の職業意識や現場での必要能力を把握し、学業への取り組みを深めることができる。</li> </ul>		
学習成果の評価基準	規定のインターンシップを終了し、受入先に求めた評価表を加味し、総合評価とする。目標設定や達成度のほか、評価表は社会人基礎力を含んだ内容とする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	インターンシップ事前研修	インターンシップについての予備知識や目標設定	
2 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
3 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
4 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
5 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
6 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
7 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
8 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
9 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
10 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
11 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
12 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
13 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
14 .	インターンシップ	各インターンシップ先に応じた注意事項等の確認	
15 .	インターンシップ事後研修	振り返り	
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	受入先からの評価(40%)、レポート(60%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使用した表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	共通語を理解し、適正に使用できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	授業概要の説明・自己紹介	教科書を読んでおく	
2 .	「話す」「聞く」「書く」「読む」の理解	教科書を読んでおく	
3 .	呼吸と発声・発音	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
4 .	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
5 .	「カ行」「ガ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
6 .	「サ行」「ザ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
7 .	「タ行」「ダ行」「ナ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
8 .	「ハ行」「バ行」「パ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
9 .	「マ行」「ヤ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
10 .	「ラ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
11 .	「ワ行」「撥音」「促音」「拗音」について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
12 .	文章を読む	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	「日本語の発生レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度50%、授業内発表50%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の受付			

科 目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使用した表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	共通語を理解し、適正に使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現できるように、的確な音声表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 「外郎売」を最終的な評価とする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	共通語のアクセント	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
2 .	共通語のアクセント	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
3 .	共通語のアクセント	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
4 .	イントネーション	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
5 .	イントネーション	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
6 .	アーティキュレーション	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
7 .	アーティキュレーション	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
8 .	アーティキュレーション	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
9 .	外郎売	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
10 .	外郎売	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
11 .	外郎売	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
12 .	外郎売テスト	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	「日本語の発生レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度30%、授業内発表30%、外郎売40%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談 の受付			



科 目	表現研究	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	山口剛一郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	650年以上、途絶えることなく演じられてきた日本を代表する舞台芸術である能について学び、実際に謡と舞の表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	袴を正しくつけ、「高砂」の謡と舞を実演することができるようになる		
学習成果の 評価基準	最終日の実演にて 正しく袴をつけていること、 大きな声で謡を謡うこと、 正しい姿勢で舞うことを評価する		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	能について 能楽の歴史、流儀、番組、能舞台について	テキストを読み予習する	
2 .	能について 袴のつけ方、扇の扱い方	テキストを読み予習する	
3 .	「高砂」の解説	テキストを読み予習する	
4 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
5 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
6 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
7 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
8 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
9 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
10 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
11 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
12 .	「高砂」の謡、舞習得	テキストを読み予習する	
13 .	公演に向けての役付け	テキストを読み予習する	
14 .	公演リハーサル	テキストを読み予習する	
15 .	公演	テキストを読み予習する	
教科書			
参考書	能楽初心者向け冊子「学んでみよう能・狂言」120円/冊(能楽協会)		
学習成果の 評価方法	授業態度：50% 到達度の確認：50%		
特記すべき 事項	足袋、浴衣、袴、扇を持参すること 能楽師として20年以上の実務経験		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	身体表現研究 A -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、学生は動くことへの興味と実践を追求する。クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	バレエの基本的知識を修得し、音感の向上や身体の可能性を広げると共に、バーレッスンを通し、自己を肯定し積極的に表現することができる。		
学習成果の 評価基準	授業中の積極的な態度と授業内課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	バレエの歴史 ウーベルト (アンドゥオール) について		
2 .	腕のポジション 足のポジション 方向について バレエ用語		
3 .	バーレッスン 1		
4 .	バーレッスン 2		
5 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 3		
6 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 4		
7 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 5		
8 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 6		
9 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 7		
10 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 8		
11 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 9		
12 .	前期のまとめ・ポール・ド・ブラ		
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 ( 50% ) 授業内課題 ( 50% )		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することが望ましいが、正しく基礎をわかまえて行い怪我に注意すること。		
質問・相談 の 受 付			



科 目	身体表現研究 A -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識、及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、学生は動くことへの興味と実践を追求する。クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	バレエの基本的知識を修得し、音感の向上や身体の可能性を広げると共に、バーレッスンを通し、自己を肯定し積極的に表現することができる。		
学習成果の 評価基準	授業中の積極的な態度と授業内課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 1 アレグロのパへのアプローチ		
2 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 2		
3 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 3		
4 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 4		
5 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 5		
6 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 6		
7 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 7		
8 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 8		
9 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 9		
10 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 10		
11 .	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール 11		
12 .	後期のまとめ・アダージョ・アレグロのアンシェヌマン		
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 ( 50% ) 授業内課題 ( 50% )		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習をすることは望ましいが、正しく基礎をわきまえて行い、怪我に注意すること。		
質問・相談 の 受 付			

科 目	身体表現研究 B -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	身体をしっかり動かし、音楽に合わせて踊る。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	振付を覚え、音に合わせて身体を動かせるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業態度、予習復習をしっかりしているか。 挑戦しているか。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ストレッチ。身体を柔らかくする為、動かす為の準備を覚える 筋肉トレーニング。ダンスに必要なインナーを鍛える為の筋肉トレーニングを覚える	ストレッチ、筋肉トレーニングを 続けてする	
2 .	アイソレーション。ダンスに必要な身体の使い方を理解し、組み合わせを覚えていく。	アイソレーションの復習	
3 .	クロスフロアレッスン。少しずつ組み合わせを覚えながら音楽に合わせて動いてみる。 ビルエット。回転の練習。	クロスフロアの練習、ビルエット の連絡	
4 .	グランジュテ。ジャンプの練習。 コンビネーション 振付を覚える	振付の復習、音楽に合わせて踊る	
5 .	アントルラッセ。 コンビネーション 音楽に合わせて踊る	ポイントをおさえて練習する	
6 .	ピケターン。 コンビネーション ポイントをおさえて踊る	アントルラッセの練習。 音楽に合わせてポイントをおさ えて踊るように練習	
7 .	シェネ。 コンビネーション 振付を覚える	シェネターンの練習 振付の復習	
8 .	グランバドゥシャ。 コンビネーション 音楽に合わせて踊る	ポイントをおさえて踊れる連絡	
9 .	アップ、ダウン。 コンビネーション ポイントをおさえて踊る	音に合わせ、ポイントをおさえて 踊る練習	
10 .	コンビネーション 振付を覚える	振付の復習、今までやったクロス フロアの練習	
11 .	コンビネーション 音楽に合わせて踊る	音楽に合わせて踊る練習 ポイントをおさえて踊る練習	
12 .	コンビネーション ポイントをおさえて踊る	表現をしながら動く練習	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度80%、授業内課題20%		
特記すべき 事項	身体のラインが見える服装、水分、タオル(必要であれば) 髪の高い人は結んでください		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	身体表現研究 B -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	音楽に合わせて身体を動かしながら、表現力を高める 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	身体で表現できるようになる		
学習成果の 評価基準	授業態度、予習復習		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	コンビネーション 振付をおぼえる	振付の復習、音楽に合わせて踊る	
2 .	コンビネーション 音楽に合わせて踊る	ポイントをおさえて踊る練習、表現する練習	
3 .	コンビネーション ポイントをおさえて踊る	のびのびと踊る練習	
4 .	コンビネーション 振付をおぼえる	振付の復習、音楽に合わせて踊る	
5 .	コンビネーション 音楽に合わせて踊る	ポイントをおさえて踊る練習、表現する練習	
6 .	コンビネーション ポイントをおさえて踊る	のびのびと踊る練習	
7 .	コンビネーション 振付をおぼえる	振付の復習、音楽に合わせて、ポイントをおさえて踊る練習	
8 .	コンビネーション 音楽に合わせて踊る、ポイントをおさえて踊る	のびのびと踊る練習	
9 .	コンビネーション 振付をおぼえる	振付の練習、音楽に合わせて踊る練習	
10 .	コンビネーション 音楽に合わせて踊る、ポイントをおさえて踊る	ポイントをおさえ、表現する練習	
11 .	コンビネーション 試験に向けて、表現力を上げ、ポイントをおさえて踊る	人前で踊る為に準備する	
12 .	コンビネーション 試験		
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度80%,授業内課題20%		
特記すべき 事項	身体のラインが見える服装、水分、タオル(必要であれば) 髪の高い人は結んでください		
質問・相談等 の 受 付			

科目	身体表現研究 D -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	リズムや音楽を理解し、筋肉や骨の構造を学びながら、音楽に合わせて身体を動かすことができるようになる 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	身体の構造を理解し、踊ることの楽しさを知る		
学習成果の 評価基準	のびのびと身体を使うことができる。音楽を聴き、応用できるようになる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	コンビネーション 振付を覚える・音楽をしっかり聴く	振付の復習	
2.	コンビネーション 筋肉や身体の使い方を理解しながら踊っていく	ゆっくり踊りながら身体の使い方を身体に覚えさせる	
3.	コンビネーション 音楽に合わせて表現してみる	音楽に合わせて踊るようになる	
4.	コンビネーション 色々なポイントを押さえつつ、踊ることができるようになる。表現することができる。	アドバイスされた所の復習	
5.	コンビネーション 振付を覚える・音楽をしっかり聴く	振付の復習	
6.	コンビネーション 筋肉や身体の使い方を理解しながら踊っていく	ゆっくり踊りながら身体の使い方を身体に覚えさせる	
7.	コンビネーション 音楽に合わせて表現してみる	音楽に合わせて踊るようになる	
8.	コンビネーション 色々なポイントを押さえつつ、踊ることができるようになる。表現することができる。	アドバイスされた所の復習	
9.	コンビネーション 振付を覚える・音楽をしっかり聴く	振付の復習	
10.	コンビネーション 筋肉や身体の使い方を理解しながら踊っていく	ゆっくり踊りながら身体の使い方を身体に覚えさせる	
11.	コンビネーション 音楽に合わせて表現してみる	音楽に合わせて踊るようになる、 テストに向けての準備	
12.	コンビネーション 色々なポイントを押さえつつ、踊ることができるようになる。表現することができる。	アドバイスされた所の復習	
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(60%) 授業内課題(20%) 達成度試験(20%)		
特記すべき 事項	ジャズシューズ、身体のラインが見える服装、髪の方は結んでください。水分、タオル		
質問・相談 の受付			

科 目	身体表現研究 D -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	前期に学んだことを活かし、更に色々な踊りに挑戦していく。基礎・技術の向上。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	基礎力、技術力、応用力の向上。		
学習成果の 評価基準	のびのびと表現しながら、同じジャズダンスの中でも色々な踊りに挑戦することができたか。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	コンビネーション 音楽を感じながら、振付を覚える	振付の復習	
2 .	コンビネーション 筋肉や骨格、身体について理解しながら踊る	振付を分解して使い方を理解し、 1つにまとめていく作業	
3 .	コンビネーション 表現力の向上・基礎力の向上	音楽のポイントや、表現する上での ポイントのまとめ	
4 .	コンビネーション 応用力の向上	応用力の向上	
5 .	コンビネーション 音楽を感じながら、振付を覚える	振付の復習	
6 .	コンビネーション 筋肉や骨格、身体について理解しながら踊る	振付を分解して使い方を理解し、 1つにまとめていく作業	
7 .	コンビネーション 表現力の向上・基礎力の向上	音楽のポイントや、表現する上での ポイントのまとめ	
8 .	コンビネーション 応用力の向上	応用力の向上	
9 .	コンビネーション 音楽を感じながら、振付を覚える	振付の復習	
10 .	コンビネーション 筋肉や骨格、身体について理解しながら踊る	振付を分解して使い方を理解し、 1つにまとめていく作業	
11 .	コンビネーション 表現力の向上・基礎力の向上	音楽のポイントや、表現する上での ポイントのまとめ。 試験の準備	
12 .	コンビネーション 応用力の向上	応用力の向上	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 ( 60% ) 授業内課題 ( 20% ) 達成度試験 ( 20% )		
特記すべき 事項	ジャズシューズ、水分、タオル、身体のラインが見える服装、髪の長い方は結んでください		
質問・相談 の 受 付			

科 目	伝統芸能研究 A -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	浴衣の着付けの指導。美しい姿勢で正座をしてお辞儀、立ち座りなどの立居振舞の指導に始まり、長唄「菊づくし」の指導を通して、日本舞踊の基本的な動きを学ぶ。集中して見て真似しながら学ぶ事の大切さを伝える。繰り返し練習して身に付けることを学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	浴衣の着付けの習得。美しい姿勢ですり足、立ち座り、正座でお辞儀ができる。 長唄「菊づくし」の稽古により、腰の落とし方、振り方、おすべりの仕方、三つ首の仕方、腕の伸ばし方などを学ぶ。 長唄「菊づくし」を踊れるようになる。		
学習成果の 評価基準	美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀（20%） 長唄「菊づくし」の評価（80%）		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	浴衣の着付け。 日本舞踊の基本となる正しい姿勢での立ち座り、お辞儀の仕方、すり足。	着付けの本等見ておく	
2 .	浴衣の着付け。 日本舞踊の概説と受講時の心構え。扇子の見立てを見せ、扇子の開け閉めの仕方、及び扇子を使ってのお辞儀の仕方。	着付けの練習	
3 .	長唄「菊づくし」の稽古(1)	習った動きを復習して覚える	
4 .	長唄「菊づくし」の稽古(2)	習った動きを復習して覚える	
5 .	長唄「菊づくし」の稽古及び小テスト(3)	習った動きを復習して覚える	
6 .	長唄「菊づくし」の稽古(4)	習った動きを復習して覚える	
7 .	長唄「菊づくし」の稽古(5)	習った動きを復習して覚える	
8 .	長唄「菊づくし」の稽古及び小テスト(6)	習った動きを復習して覚える	
9 .	長唄「菊づくし」の稽古(7)	習った動きを復習して覚える	
10 .	長唄「菊づくし」の稽古(8)	習った動きを復習して覚える	
11 .	長唄「菊づくし」の稽古(9)	習った動きを復習して覚える	
12 .	授業内発表		
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(20%) 小テスト(20%) 授業内発表(60%)		
特記すべき 事項	担当者は舞踊講師として36年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の 受 付	授業中や授業の前後にも受け付けます		



科 目	伝統芸能研究 A -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	<p>前期に続き、美しい姿勢でのお辞儀、立ち座り等の立居振舞の指導。前期の基本の動きから小唄「白扇の」の稽古により、柔らかに繊細な動きを観て感じて表現することで、日本人独特の繊細な感性や表現があることを教える。しっかり集中して観て真似をしながら学ぶ大切さを伝える。 繰り返し復習して身に付けることを学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<p>より美しい浴衣の着付けの習得。美しい姿勢での立居振舞、お辞儀の習得。 小唄「白扇の」を踊れるようになる。</p>		
学習成果の評価基準	<p>美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀（10%） 小唄「白扇の」の評価（90%）</p>		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	小唄「白扇の」の稽古(1)	習った動きを復習して覚える	
2 .	小唄「白扇の」の稽古(2)	習った動きを復習して覚える	
3 .	小唄「白扇の」の稽古及び小テスト(3)	習った動きを復習して覚える	
4 .	小唄「白扇の」の稽古(4)	習った動きを復習して覚える	
5 .	小唄「白扇の」の稽古(5)	習った動きを復習して覚える	
6 .	小唄「白扇の」の稽古及び小テスト(6)	習った動きを復習して覚える	
7 .	小唄「白扇の」の稽古(7)	習った動きを復習して覚える	
8 .	小唄「白扇の」の稽古(8)	習った動きを復習して覚える	
9 .	小唄「白扇の」の稽古及び小テスト(9)	習った動きを復習して覚える	
10 .	小唄「白扇の」の稽古(10)	習った動きを復習して覚える	
11 .	小唄「白扇の」の稽古(11)	習った動きを復習して覚える	
12 .	授業内発表		
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%） 小テスト（30%） 授業内発表（60%）		
特記すべき事項	担当者は舞踊講師として36年の実務経験を有しています		
質問・相談等の受付	授業中や授業の前後にも受け付けます		

科 目	音声表現研究 A -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	<p>音声のみでの表現の特性を学ぶ。 スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<p>音声表現と身体表現の連動を感じ、自身の言葉に敏感な耳を得る。</p>		
学習成果の 評価基準	<p>授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 評価は「ことば」「芝居」をみる。</p>		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	授業概要の説明		
2 .	声優の基礎知識・声で遊ぶ	台本を読んでおく	
3 .	台詞を読む	台本を読んでおく	
4 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
5 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
6 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
7 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
8 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
9 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
10 .	アニメアフレコ	台本を読んでおく	
11 .	アニメアフレコ	台本を読んでおく	
12 .	アニメアフレコ	台本を読んでおく	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内発表60%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	音声表現研究 A -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	<p>音声のみでの表現の特性を学ぶ。 スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<p>音声表現と身体表現の連動を感じ、自身の言葉に敏感な耳を得る。 声優を志す者は、特に言葉と向き合い、音声での表現力を身につける。</p>		
学習成果の 評価基準	<p>授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 評価は「ことば」「芝居」をみる。</p>		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
2 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
3 .	ボイスドラマ	台本を読んでおく	
4 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
5 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
6 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
7 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
8 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
9 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
10 .	漫画に声を合わせる	台本を読んでおく	
11 .	アニメアフレコ	台本を読んでおく	
12 .	アニメアフレコ	台本を読んでおく	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内発表60%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	音声表現研究 B -	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	声優として必要な専門用語やスタジオマナーを学ぶ スタジオ内でマイクワーク 必要とされる演技を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	声優として必要とされる演技の習得 スタジオ内でのマナーや用語を知り、マイクワークが習得できる		
学習成果の 評価基準	キャラクターの心情を理解・表現できているのか 専門用語の理解度 スタジオ内でのマイクワークを円滑に行うことができているか S：よくでき理解している A：できている B：理解しようとしている		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	自己紹介 自分の魅力を表現できているのか		
2 .	スタジオマナー 専門用語 1	配布プリントを読んでおく	
3 .	専門用語 2	配布プリントを読んでおく	
4 .	マイクワーク	配布プリントを読んでおく	
5 .	専門用語確認テスト アニメアフレコの基礎	配布プリントを読んでおく	
6 .	アニメアフレコ ( 第一段階 ) 1 やってみたいキャラクターに挑戦	台本を読んでおく	
7 .	アニメアフレコ ( 第一段階 ) 2 キャラクターを理解する	台本を読んでおく	
8 .	アニメアフレコ ( 第一段階 ) 3 作品発表 キャラクターの確立	台本を読んでおく	
9 .	アニメアフレコ ( 第二段階 ) 1 自分に合ったキャラクターの模索	台本を読んでおく	
10 .	アニメアフレコ ( 第二段階 ) 2 キャラクターを理解する	台本を読んでおく	
11 .	アニメアフレコ ( 第二段階 ) 3 状況に合わせた感情表現をする	台本を読んでおく	
12 .	アニメアフレコ ( 第二段階 ) 4 作品発表	台本を読んでおく	
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	受講態度 ( 40% ) 授業内課題 ( 40% ) その他【 演技への積極性 】 ( 20% )		
特記すべき 事項	台本、テキストを読み込み、積極的に行動、努力すること 担当者は声優として26年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の 受 付			

科目	音声表現研究 B -	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	アニメアフレコにおいて声優として必要とされる芝居を学ぶ スタジオ内でのマイクワークを学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	声優として必要とされる芝居の確立 台本や現場で使われる専門用語理解することにより、作品の世界観を把握する マイクワーク身につけ制作作業を円滑に行う		
学習成果の 評価基準	声優の役割を理解し実技実践していくなかで、状況に合わせた芝居ができているかを作品発表にて評価する。 S：キャラクターのを理解し感情表現がとてもよくできている・マイクワークが滑らかにできる A：キャラクターのを理解し感情表現できている・マイクワークができる B：キャラクターのを理解しようと努めている・マイクワークを円滑に行う努力がみられる		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	アニメアフレコ1-1 綿密なキャラクター作り(第一段階)	台本を読んでおく	
2.	アニメアフレコ1-2 綿密なキャラクター作り(第二段階)	台本を読んでおく	
3.	アニメアフレコ1-3 綿密なキャラクター作り(第三段階)	台本を読んでおく	
4.	アニメアフレコ2-1 作品発表 綿密なキャラクター作り(第四段階)	台本を読んでおく	
5.	アニメアフレコ2-1 長文のセリフに挑戦(第一段階)	台本を読んでおく	
6.	アニメアフレコ2-2 長文のセリフに挑戦(第二段階)	台本を読んでおく	
7.	アニメアフレコ2-3 長文のセリフに挑戦(第三段階)	台本を読んでおく	
8.	アニメアフレコ2-4 作品発表 長文のセリフに挑戦(第四段階)	台本を読んでおく	
9.	アニメアフレコと外画アテレコとの違い 外画アテレコの収録を知る	配布プリントを読んでおく	
10.	外画アテレコ1-1	台本を読んでおく	
11.	外画アテレコ1-2	台本を読んでおく	
12.	外画アテレコ1-3	台本を読んでおく	
13.			
14.			
15.			
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (40%) その他【演技への積極性】 (20%)		
特記すべき 事項	台本、テキストを読み込み、積極的に行動、努力すること 担当者は声優として26年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付			

科 目	歌唱表現法	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	辺春容子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	楽譜に慣れ、音楽の基礎知識やソルフェージュ力を身につける。実技を通して、発生方法や身体の使い方を学ぶ。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	5度音程までの視唱をアカペラで歌唱できるようになる。なだらかな発語で課題曲の歌唱ができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 実技試験での音程・声量・表現の観点における評価		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )		授業時間外学習
			予習・復習
1 .	音楽の基礎知識 視唱(2度音程1~2)		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
2 .	音楽の基礎知識 リズム練習1-1 視唱(2度音程) 課題曲(1) 1		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
3 .	リズム練習1-2 課題曲(1)-2 視唱(2度音程) 課題曲(2)-1		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
4 .	リズム練習2-1 課題曲(1)-3 視唱(2度音程) 課題曲(2)-2		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
5 .	リズム練習2-2 課題曲(1)-4 視唱(2度音程) 課題曲(2)-3		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
6 .	リズム練習3-1 課題曲(2)-4 視唱(3度音程) 課題曲(3)-1		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
7 .	リズム練習3-2 課題曲(3)-2 視唱(3度音程) 課題曲(4)-1		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
8 .	リズム練習3-3 課題曲(3)-3 視唱(4度音程) 課題曲(4)-2		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
9 .	リズム練習4-1 課題曲(3)-3 視唱(4度音程) 課題曲(4)-2		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
10 .	リズム練習4-2 課題曲(4)-3 視唱(4度音程) 課題曲復習		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
11 .	リズム練習1-2 課題曲復習 視唱(4度音程)		前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
12 .	授業のまとめ		前回の授業内容の復習
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	基礎ソルフェージュ(ソルフェージュ教育ライブラリー) 課題曲は授業時に配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度20%、到達度確認テスト80%		
特記すべき 事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかりと行っておく。		
質問・相談 の受付			



科 目	歌唱表現法	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	辺春容子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	前期の学習を踏まえ、より音楽的な歌唱表現をめざす。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	さらに広い音程を安定して歌唱できるようになる。歌詞を理解することでより豊かな歌唱表現を工夫できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 実技試験での音程・声量・表現の観点における評価		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	リズム練習 5 - 1 視唱 ( 5 度音程 )	課題曲 ( 5 ) ( 6 ) - 1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
2 .	リズム練習 5 - 3 視唱 ( 5 度音程 )	課題曲 ( 5 ) ( 6 ) - 2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
3 .	リズム練習 6 - 1 視唱 ( 6 度音程 )	課題曲 ( 5 ) ( 6 ) - 3	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
4 .	リズム練習 6 - 2 視唱 ( 6 度音程 )	課題曲 ( 7 ) ( 8 ) - 1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
5 .	リズム練習 6 - 3 視唱 ( 6 度音程 )	課題曲 ( 7 ) ( 8 ) - 2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
6 .	リズム練習 7 - 1 視唱 ( 7 度音程 )	課題曲 ( 7 ) ( 8 ) - 3	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
7 .	リズム練習 7 - 2 視唱 ( 8 度音程 )	課題曲 ( 9 ) ( 10 ) - 1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
8 .	リズム練習 7 - 3 視唱 ( 8 度音程 )	課題曲 ( 9 ) ( 10 ) - 2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
9 .	リズム練習 8 - 1 視唱 ( 総合練習 )	課題曲 ( 9 ) ( 10 ) - 3	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
10 .	リズム練習 8 - 1 視唱 ( 総合練習 )	課題曲復習	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
11 .	リズム練習 8 - 2 視唱 ( 総合練習 )	課題曲復習	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み
12 .	後期のまとめ		前回の授業内容の復習
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	基礎ソルフェージュ (ソルフェージュ教育ライブラリー) 課題曲は授業時に配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20%、到達度確認テスト 80%		
特記すべき 事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかりと行っておく。		
質問・相談 の 受 付			

科 目	ミュージカル研究	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏・生野奈津美	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルとは楽曲、ストーリー、台詞の中から感情を起点にダイナミックに伝える舞台表現です。それを表現するために呼吸法、発声法、身体の使い方から舞台表現までの基礎を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自分の声や身体の特徴を知り、自ら課題を克服出来る。ミュージカルを通して自分自身の価値を見出すと共に、協調性やコミュニケーション力を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 譜面を読み、複式発声でしっかり音がとれる。 楽曲のイメージを具体的に表現出来る。 身体と感情をコントロールして、歌唱表現が出来る。 100点満点中50点以上を評価基準とする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ミュージカルとはなにか？(歴史と作品を学ぶ)	ウォーミングアップ	
2.	発声の仕組みと呼吸法・発声法を学ぶ	発声・呼吸法	
3.	ソルフェージュ を歌い、楽曲 の譜読みをする	発声・呼吸法・譜読み	
4.	ソルフェージュ を歌い、楽曲 の構成を分析し、歌唱する	発声・呼吸法・譜読み	
5.	ソルフェージュ を歌い、楽曲 のハーモニーを練習する	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
6.	ソルフェージュ を歌い、楽曲 を歌いこむ	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
7.	ソルフェージュ を歌い、楽曲 に感情表現を入れて歌う	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
8.	楽曲 にステージングと台詞を入れてシーンを演じる	感情・歌・動きを整理する	
9.	楽曲 のシーンを創造する	感情・歌・動きを整理する	
10.	楽曲 のシーンを総合的に演じる	感情・歌・動きを整理する	
11.	楽曲 のシーン(課題)を発表する	感情・歌・動きを整理する	
12.	まとめ・振り返り	客観的に振り返る	
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(70%)		
特記すべき 事項	動ける服装で受講のこと。 1987年~2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出。		
質問・相談等 の受付	随時可		

科 目	ミュージカル研究	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏・生野奈津美	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルとは楽曲、ストーリー、台詞の中から感情を起点にダイナミックに伝える舞台表現です。それを表現するために呼吸法、発声法、身体の使い方から舞台表現までの基礎を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自分の声や身体の特徴を知り、自ら課題を克服出来る。ミュージカルを通して自分自身の価値を見出すと共に、協調性やコミュニケーション力を身に付ける。		
学習成果の評価基準	授業内課題において評価する。 譜面を読み、複式発声でしっかり音がとれる。 楽曲のイメージを具体的に表現出来る。 身体と感情をコントロールして、歌唱表現が出来る。 100点満点中50点以上を評価基準とする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1.	楽曲 を譜読みする	発声・呼吸法・譜読み	
2.	楽曲 を分析し歌う	発声・呼吸法・譜読み	
3.	楽曲 を歌い込む	録音し、反復練習	
4.	楽曲 を歌い込む	録音し、反復練習	
5.	楽曲 に台詞とステージングを入れて表現する	録音し、反復練習	
6.	楽曲 に台詞とステージングを入れて表現する	録音し、反復練習	
7.	楽曲 を発表(課題)する	客観的に振り返る	
8.	楽曲 を譜読みする	発声・呼吸法・譜読み	
9.	楽曲 を分析し歌う	発声・呼吸法・譜読み	
10.	楽曲 歌い込む	録音し、反復練習	
11.	楽曲 にステージングと台詞を入れて表現する	録音し、反復練習	
12.	楽曲 を(課題)発表する	客観的に振り返る	
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布する		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(70%)		
特記すべき事項	動ける服装で受講のこと。 1987年~2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出。		
質問・相談等の受付	随時可		

科 目	舞台演習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	井上嘉人	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台監督の仕事を通して、舞台創造の基礎を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	舞台芸術におけるスタッフワークについての基礎知識を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	受講態度に加え授業内課題の成果やレポートの提出で評価をします。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	劇場の基礎知識を学ぶ ( 講義の説明 )	講義内容の説明	
2 .	劇場の基礎知識を学ぶ ( 劇場見学 )	大谷小劇場の見学	
3 .	劇場の基礎知識を学ぶ ( 劇場見学 )	大谷講堂の見学	
4 .	劇場の基礎知識を学ぶ ( 舞台用語 )	舞台基礎知識の把握	
5 .	劇場の基礎知識を学ぶ ( 舞台用語 )	舞台基礎知識の把握	
6 .	舞台でのパミリについての説明と実践	公演に向けての作業	
7 .	舞台での安全作業の確認について学ぶ	安全作業の理解	
8 .	劇場の舞台機構を覚える ( 綱元の仕組 )	劇場機構の理解	
9 .	劇場の舞台機構を覚える ( 綱元操作 )	劇場機構の理解	
10 .	劇場の舞台機構を覚える ( 綱元操作 )	劇場機構の理解	
11 .	舞台図面の見方 ( 舞台平面図、断面図 )	舞台図面の理解	
12 .	舞台の仕込み ( 平台と箱馬の仕込み )	劇場備品の把握	
13 .	舞台の仕込み ( 舞台床面の仕込み )	劇場備品の把握	
14 .	舞台の仕込み ( 舞台幕類の仕込み )	劇場備品の把握	
15 .	まとめ ( 前期の復習 ・ 振り返りと点検 )	前期の振り返り	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 ( 40% )、授業内課題 ( 30% )、レポート課題 ( 30% )		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科目	舞台演習	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	井上嘉人	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	前期の舞台演習 で学んだ基礎知識を基に、より詳細な劇場スタッフに必要な知識を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(4)に対応する。		
到達目標	質の高い舞台芸術を創作するためのスタッフの役割と業務を理解する。		
学習成果の 評価基準	受講態度に加え授業内課題の成果やレポートの提出で評価をします。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	前期の復習(前期で学んだ事の再確認)	前期の振り返り	
2.	綱元操作の復習(舞台機構の再確認)	綱元の操作確認	
3.	綱元操作の復習(舞台機構の再確認)	綱元の操作確認	
4.	舞台監督の役割についての説明と確認	業務内容の確認	
5.	舞台監督の役割についての説明と確認	各演目の舞台監督	
6.	スタッフ組織と内容(各スタッフの役割確認)	業務内容の確認	
7.	スタッフ組織と内容(各スタッフの役割確認)	打合せ事項の確認	
8.	舞台監督のしごと(劇場仕込みの流れ)	仕事の理解	
9.	舞台監督のしごと(各スタッフとの連携)	仕事の理解	
10.	舞台監督のしごと(舞台転換の確認)	仕事の理解	
11.	舞台備品の仕込み方(電動工具の使用方法)	劇場備品の把握	
12.	舞台備品の仕込み方(スチールデッキ)	劇場備品の把握	
13.	舞台備品の仕込み方(ビニールマット)	劇場備品の把握	
14.	舞台備品の仕込み方(パネルの仕込み)	劇場備品の把握	
15.	まとめ(後期の復習・振り返りと点検)	後期の振り返り	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内課題30%、レポート30%		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付			

科目	音響基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	穂田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	基本的な知識・技術の習得 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	中間発表に必要な技術の実習		
学習成果の 評価基準	到達度確認テストを実施し評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	音響の基礎	P Aとは	
2.	音響の基礎	前回の復習	
3.	各種ケーブルの巻き方	マイクケーブルの8の字巻き	
4.	各種ケーブルの巻き方	太めのマルチケーブルの8の字巻き	
5.	音響機器の特性と用途	オーディオ再生機器(1)	
6.	音響機器の特性と用途	オーディオ再生機器(2)	
7.	音響ミキサーについて	アナログミキサー(1)	
8.	音響ミキサーについて	アナログミキサー(2)	
9.	音響ミキサーについて	アナログミキサー(3)	
10.	音響機材の接続	接続(1)	
11.	音響機材の接続	接続(2)	
12.	音響機材の接続	接続(3)	
13.	劇場の音響について	前回までの復習	
14.	劇場の音響について	前回までの復習	
15.	まとめ	前回までの復習	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (30%) その他【到達度テスト】(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談 の受付			



科 目	音響基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	穂田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	技術を習得し、一人で音を出せるのを目標とする 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	音が出るまでの配線の習得		
学習成果の 評価基準	到達度確認テストを実施し評価する		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	音響の仕込み図の書き方	記号・楽器等	
2 .	音響の仕込み図の書き方	記号・楽器等	
3 .	仕込み図を見てのセッティング	仕込み図	
4 .	劇場にての音出し	セッティング	
5 .	イコライザーでの調整方法	イコライザーの配線	
6 .	エフェクターの種類について	エフェクターの準備	
7 .	音源の編集	効果音	
8 .	音源の編集	効果音	
9 .	音源の編集	効果音	
10 .	デジタルミキサーの使い方	ミキサー	
11 .	デジタルミキサーの使い方	ミキサー	
12 .	音源の再生	スピーカー等の準備	
13 .	音源の再生	スピーカー等の準備	
14 .	音響機器を一人で接続してみる	音響機材	
15 .	まとめ	音響機材	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (30%) その他【 到達度テスト 】 (30%)		
特記すべき 事項	この科目の単位が取得できなければ、後期「音響基礎」は履修できない 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科目	照明基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	赤司晴彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台芸術の質を高める為には不可欠な「舞台照明」についての基礎知識を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	舞台照明についての基礎知識を基礎技術を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	積極性と理解度を受講態度とし、授業内課題の成果と共に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	舞台照明概要の説明		
2.	舞台機構と照明～昇降操作	配布資料の確認	
3.	舞台機構と舞台照明設備について	配布資料の確認	
4.	スポットライト・フィルターとゴボについて	前回の復習	
5.	舞台照明に必要な電気知識について	前回の復習	
6.	舞台における照明の作業	前回の復習	
7.	コンサート照明について(1)	VTR等で照明効果を学習	
8.	コンサート照明について(2)	VTR等で照明効果を学習	
9.	コンサート照明の確認	VTR等で照明効果を学習	
10.	照明の仕込みについて	前回の復習	
11.	照明シュート(フォーカシング)	前回の復習	
12.	7月公演の照明仕込みについて	台本の理解	
13.	7月公演の仕込み(1)	台本の理解	
14.	7月公演の仕込み(2)	台本の理解	
15.	まとめ	振り返りと自己点検	
教科書	プリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(50%) 授業内課題 (20%) その他【 レポート 】(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付			

科目	照明基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	赤司晴彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台照明の基礎知識を応用し、照明の仕込みに必要な基礎技術を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	前期に学んだ基礎技術を基にして、舞台照明を仕込むにあたっての技術を身に付ける事が出来る。		
学習成果の 評価基準	積極性と理解度を受講態度とし、授業内課題の成果と共に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	前期レポートの振り返り	前期レポートの確認	
2.	ケーブル巻・灯体吊りこみ・幕の張り替え	前回の復習	
3.	ケーブル巻・灯体吊りこみ・幕の張り替え	前回の復習	
4.	7月公演の照明プランについて	プランの理解	
5.	ミュージカル照明	ミュージカル作品の鑑賞	
6.	ミュージカル照明	ミュージカル作品の鑑賞	
7.	ミュージカル照明の確認	ミュージカル作品の鑑賞	
8.	シュート実践	前回の復習	
9.	シュート実践	前回の復習	
10.	シュート実践	前回の復習	
11.	調光操作卓の取り扱い	操作の復習	
12.	調光操作卓の取り扱い	操作の復習	
13.	卒業公演 仕込み	プランの理解	
14.	卒業公演 仕込み	プランの理解	
15.	まとめ	振り返りと点検	
教科書	プリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 授業内課題 (50%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付			

科目	表現基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演技理論、演劇ワークショップを交えながら、表現の基礎となる歪みのない身体と声の獲得を目指します。 また、表現者としての土台作りを図り、小規模の発表を行い、作品と演技の理解を深めます。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(3)に対応する。		
到達目標	自分の特徴を知り、自己表現力の基礎をつくる。 また、演劇の学びを通して、他に共感し、場をつくり関わるができる。		
学習成果の 評価基準	演技に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。 作品研究、人物考察の達成度を測るための「到達度確認テスト」で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	イントロダクション/学びのねらいと進め方について 稽古場の三原則を理解する	予習：シラバスを見ておく。 復習：三原則を覚える。	
2.	MAPコミュニケーションと登場人物の背景について	予習：偏愛MAPを作成する。 復習：追加があれば書き込む。	
3.	演劇ワーク「フルーツバスケット」、「ジョハリの窓」解説	予習：コミュニケーションの意味を知る。 復習：日常で試してみる。	
4.	腹式呼吸を体得し、バランスの取れた身体感覚を持つ	予習：配布資料を読んでおく。 復習：日常で試してみる。	
5.	身体運動と下半身の安定 ニュートラルな姿勢、歩行のレッスン	予習：ストレッチする。 復習：日常で試してみる。	
6.	演劇ワーク「WA!」「ストーリーづくり」気持ちの開放について	予習：ワークショップの意味を知る。 復習：遊びの感覚を掴む。	
7.	「見る・見られる」ことによる心理的・視野的省察	予習：アイコンタクトの観察 復習：日常で試してみる。	
8.	緊張のコントロールについて～自意識とイメージ設定力～	予習：自意識について理解する。 復習：小さな成功体験を重ねる。	
9.	丹田を知覚し、心身の状態を保つことに役立てる	予習：丹田の意味を知る。 復習：実際に数回やってみる。	
10.	演劇ワーク「母音ゼスチャー」5つの母音について	予習：母音の音を聴いてみる。	
11.	日本語の音声構造を理解し、理想的な発声に近づける	復習：母音変換に慣れる。	
12.	良い発声について考え、発声技能を高める	予習：自分の声の特徴を知る。 復習：学んだ事を観察してみる。	
13.	いろいろな音声を出し、自身の発話の特徴をつかむ	予習：声を録音してみる。 復習：積極的に発話する。	
14.	演劇ワーク「一枚の絵」「演技連鎖」	予習：配布資料を読んでおく。	
15.	身体感覚と記憶を知覚する	復習：過去の記憶や習慣を思い出す。	
教科書	必要に応じてプリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき 事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科目	表現基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演技理論、演劇ワークショップを交えながら、表現の基礎となる歪みのない身体と声の獲得を目指します。また、表現者としての土台作りを図り、小規模の発表を行い、作品と演技の理解を深めます。		
到達目標	自分の特徴を知り、自己表現力の基礎をつくる。 また、演劇の学びを通して、他に共感し、場をつくり関わるができる。		
学習成果の評価基準	演技に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。 作品研究、人物考察の達成度を測るための「到達度確認テスト」で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	演劇ワーク「モーニングページ」、自己開放に役立てる	予習：数日、日記をつける。 復習：自己開放について考察する。	
17.	演劇ワーク「一問一答」、物を生かす(キャラクター造形)	予習：日常生活で触れている物を思い出す。 復習：物への想像的会話をおこなう。	
18.	演劇ワーク「彫刻家」、身体感覚を磨く	予習：配布資料を読んでおく。 復習：彫刻テーマを考える。	
19.	キャラクターを捉える具体的作業、エンパシー能力の醸成	予習：配布資料を読んでおく。 復習：エンパシーの意味を理解する。	
20.	ひとり台詞(科白)「ブンナよ、木からおりてこい」作品理解	予習：著者を調べる。 復習：発声の要素を理解する。	
21.	心のイメージと演技の型(メリハリ往復運動) 類似体験と類似人物の引用	予習：配布テキストを読む。 復習：心の引き出しを使えるようになる。	
22.	演劇ワーク「新聞記者」、取材報告	予習：新聞を読んでみる。 復習：日常の中で実感を得る。	
23.	演劇ワーク「空間構成」、舞台の動き方	予習：配布資料を読んでおく。 復習：日常生活での観察をおこなう。	
24.	エチュード「王様と召使い」	予習：三原則を確認しておく。 復習：日常生活での観察をおこなう。	
25.	ステイタス表に基づく人物相対化	予習：配布資料を読んでおく。 復習：演技の指針に取り入れる。	
26.	エチュード「部活動」	予習：三原則を確認しておく 復習：空間・場面の視点が持てる。	
27.	集団創作とチームの強み	予習：エチュードの意味を理解する。 復習：空間・場面の視点が持てる。	
28.	対話の種類「3つの輪」その1	予習：配布資料を読んでおく。	
29.	対話の種類「3つの輪」その2	復習：日常生活での観察をおこなう。	
30.	知識と学習のまとめ/到達度確認テスト	振り返り	
教科書	必要に応じてプリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。 予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科 目	舞台表現法	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	いかなる表現もその基本となるのは「感情」である。その感情を表現するために訓練された発声法が必要であり、肉体が必要である。 この講座では表現の基礎である「感情」の動きに焦点を合わせ舞台表現者としての基礎を学ぶ。		
到達目標	自己の肉体と声を知り、自由な表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 ニュートラルに立ち、歩く事が出来る。 腹式呼吸で発声が出る。 嘘のない感情表現が出来る。 独創性を持ち、自由な発想で表現出来る。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	発声法 (発声の仕組みを学ぶ)	ウォーミングアップ	
2 .	発声法 (腹式呼吸)	ウォーミングアップ 呼吸法	
3 .	発声法 (身体の共鳴)	発声・ウォーミングアップ・呼吸法	
4 .	発声法 (音階発声)	発声・ウォーミングアップ・呼吸法	
5 .	肉体表現 (体幹トレーニング)	発声・ウォーミングアップ・呼吸法	
6 .	肉体表現 (音楽に合わせて動く)	発声・ウォーミングアップ 音楽からイメージするものを自由に創造する	
7 .	肉体表現 (肉体コントロールとリラックス)	発声・ウォーミングアップ 肉体の緊張と緩和を繰り返し集中している時の感覚を捉える	
8 .	肉体表現 (動物を観察し演じてみる)	実際の動物をよく観察し絵を書く 動物に	
9 .	感情表現 (感情の起こりを見つける)	日常の感情の起こる瞬間を分析し 再現してみる	
10 .	感情表現 (刺激と反応)	日常での他者との関わりの中で ヘイビアを観察する	
11 .	感情表現 (行動すること)	目的があるから行動があることを 日常から発見する	
12 .	感情表現 (表現すること・存在すること)	日常で存在している自分と表現し ようとしている自分を発見する	
13 .	感情表現 (表現すること・存在すること)	日常で存在している自分と表現し ようとしている自分を発見する	
14 .	感情表現 (表現すること・存在すること)	日常で存在している自分と表現し ようとしている自分を発見する	
15 .	感情表現 (表現すること・存在すること)	日常で存在している自分と表現し ようとしている自分を発見する	
教科書	プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (30%) 授業内課題 (70%) 授業内課題発表時にコメント、フィードバックします。		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出する。 動ける服装で受講すること。		
質問・相談等 の受付	随時可。		



科目	舞台表現法	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	リアリズム演技の考察～想像の設定の中で真実を生きることとは何かを学ぶ。 戯曲からシーンを演じ、表現の本質を探究します。		
到達目標	自由で個性豊かな俳優としての基礎を身に付け、表現者として自らの課題を発見することが出来る。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 肉体開放が出来る。 状況に応じたリアルな表現が出来る。 相手を受け入れ反応する事が出来る。 脚本、演出の意図を汲み演技をすることが出来る。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	トラスト練習 (自己開示・未知の領域に飛び込む)	ウォーミングアップ・発声・リラックス	
2.	感情準備(感情の記憶を誘発する)・センスリーワーク(感じることの反復動作)	ウォーミングアップ・発声・リラックス	
3.	置き換え練習(魔法のifを用いる)	ウォーミングアップ・発声・リラックス	
4.	ifを用いたエチュード・喜怒哀楽	ウォーミングアップ・発声・リラックス	
5.	シーンワーク (台詞・相手との関わり)	台本を読み、分析する 感情を呼び覚ます	
6.	シーンワーク (シーンの目的)	台本を読み、分析する 感情を呼び覚ます	
7.	シーンワーク (前状況を考える)	台本を読み、分析する 人物の背景を考察する	
8.	シーンワーク (キャラクター作り・イメージで演じない)	台本を読み、分析する 経験のないものを観察・体験する	
9.	シーンワーク (脚本分析・目的とテーマを導き出す)	台本を読み、分析する 台詞を覚える	
10.	シーンワーク (本読み・事前に準備すること)	台本を読み、分析する 台詞を覚え、感情を呼び覚ます	
11.	シーンワーク (自意識との戦い～相手を受け入れる)	台本を読み、分析する 相手と関わることに集中する	
12.	シーンワーク (自己葛藤から行動へ)	台本を読み、分析する 衝動に身を任せる	
13.	シーンワーク (自己葛藤から行動へ)	台本を読み、分析する 衝動に身を任せる	
14.	シーンワーク (自己葛藤から行動へ)	台本を読み、分析する 衝動に身を任せる	
15.	シーンワーク (自己葛藤から行動へ)	台本を読み、分析する 衝動に身を任せる	
教科書	プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(30%)授業内課題(70%) 課題発表時にコメント、フィードバックします。		
特記すべき 事項	動ける服装で受講の事。 1987年～2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出。		
質問・相談等 の受付	随時可。		



科 目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(7)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1.	本読み	台本を読んでおく	
2.	本読み	台本を分析する	
3.	本読み	役の背景を考える	
4.	本読み	時代背景を考える	
5.	テーブルトーク	公演の目標を考える	
6.	テーブルトーク	今の自分に足りないことを考える	
7.	テーブルトーク	なりたい自分を想像する	
8.	テーブルトーク	自分自身の到達目標を定める	
9.	立ち稽古	台詞と感情を覚える	
10.	立ち稽古	台詞と感情を覚える	
11.	立ち稽古	台詞と感情を覚える	
12.	立ち稽古	台詞と感情を覚える	
13.	立ち稽古	立ち位置と相手との関係を覚える	
14.	立ち稽古	立ち位置と相手との関係を覚える	
15.	立ち稽古	立ち位置と相手との関係を覚える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。 授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	立ち稽古	行動の意味を考える	
17.	立ち稽	行動の意味を考える	
18.	立ち稽	行動の意味を考える	
19.	立ち稽	行動の意味を考える	
20.	立ち稽古	行動の意味を考える	
21.	抜き稽古	演出意図を考える	
22.	抜き稽古	演出意図を考える	
23.	抜き稽古	演出意図を考える	
24.	抜き稽古	演出意図を考える	
25.	抜き稽古	演出意図を考える	
26.	衣装合わせ	イメージに合った衣裳を選ぶ	
27.	衣装合わせ	イメージに合った衣裳を選ぶ	
28.	通し稽古	ノートを確認・修正	
29.	通し稽古	ノートを確認・修正	
30.	通し稽古	ノートを確認・修正	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法			
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(7)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	小道具づくり1	使用する小道具を抜き出す	
2.	小道具づくり2	小道具リストを作る	
3.	小道具づくり3	製作準備	
4.	小道具づくり4	製作準備	
5.	大道具製作1	舞台図の把握	
6.	大道具製作2	使用する道具の把握	
7.	大道具製作3	製作準備	
8.	大道具製作4	製作準備	
9.	大道具製作5	製作準備	
10.	情報宣伝1	宣伝ツール確認	
11.	情報宣伝2	チラシ作成準備	
12.	情報宣伝3	デザイン準備	
13.	情報宣伝4	チケット・ポスターデザイン準備	
14.	舞台稽古1	台詞を覚える	
15.	舞台稽古2	台詞を覚える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	舞台稽古3	台詞を覚える	
17.	舞台稽古4	台詞を覚える	
18.	舞台稽古5	台詞を覚える	
19.	舞台稽古6	台詞を覚える	
20.	キューシートを作成する	各セクションきっかけの把握	
21.	転換表を作成する	各セクションきっかけの把握	
22.	香盤表を作成する	台本確認	
23.	通し稽古1	流れをさらっておく	
24.	通し稽古2	ノートを確認・修正	
25.	通し稽古3	ノートを確認・修正	
26.	通し稽古4	ノートを確認・修正	
27.	通し稽古5	ノートを確認・修正	
28.	通し稽古6	本番通りの準備	
29.	通し稽古7	本番通りの準備	
30.	通し稽古8	本番通りの準備	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法			
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科 目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(7)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	舞台装置の仕込み	仕込み図確認	
2 .	リノリウム	安全確認	
3 .	装置セットアップ	安全確認	
4 .	安全確認	安全確認	
5 .	吊りモノの仕込み	仕込み図確認	
6 .	長尺合わせ	安全確認	
7 .	吊りこみ・動作チェック	安全確認	
8 .	照明仕込み	仕込み図確認	
9 .	照明シュート1	安全確認	
10 .	照明シュート2	安全確認	
11 .	照明明かり作り1	立ち位置確認	
12 .	照明明かり作り2	立ち位置確認	
13 .	照明明かり作り3	立ち位置確認	
14 .	照明明かり作り4	立ち位置確認	
15 .	音響仕込み	仕込み図確認	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科目	舞台演習基礎	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	サウンドチェック	安全確認	
17.	サウンドチェック	安全確認	
18.	サウンドチェック	安全確認	
19.	転換稽古1	転換表確認	
20.	転換稽古2	転換表確認	
21.	転換稽古3	転換表確認	
22.	転換稽古4	転換表確認	
23.	場当たり・ステージング1	台本・キューシート確認	
24.	場当たり・ステージング2	台本・キューシート確認	
25.	場当たり・ステージング3	台本・キューシート確認	
26.	場当たり・ステージング4	台本・キューシート確認	
27.	通し稽古1	プリセット確認	
28.	通し稽古2	プリセット確認	
29.	通し稽古3	プリセット確認	
30.	通し稽古4	プリセット確認	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法			
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科 目	作家作品研究	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならないキーワードを選び、映像などを通して体感し、文化表現の広がりと深さを把握する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	必要なキーワードを、実際の作品を通して体感し、社会における文化表現の全体像を大づかみに知る。前期では主にジャンルを学び、後期には特徴的な表現形態を学ぶ。		
学習成果の 評価基準	文化芸術史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	文化ということば その1	「ホモ・ルーデンス」と遊び	
2 .	文化ということば その2	文化は農業？	
3 .	芸術ということば その1	「芸」と「芸術」	
4 .	芸術ということば その2	職人技と、いわゆるオーラ	
5 .	芸能ということば その1	芸能と芸術の関係	
6 .	芸能ということば その2	民族芸能と放浪芸	
7 .	エンターテインメント(娯楽) その1	スリルとサスペンス	
8 .	エンターテインメント(娯楽) その2	恐怖と笑い	
9 .	ドラマ その1	悲劇・喜劇	
10 .	ドラマ その2	悲喜劇・メロドラマ	
11 .	バレエ その1	なぜ王が踊るのか	
12 .	バレエ その2	空中に浮くこと	
13 .	オペラ その1	めざせ全体芸術	
14 .	オペラ その2	消えた歌手 カストラート	
15 .	表現の文化をを考えてみよう	中間のまとめ	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の 評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、授業内レポート40%		
特記すべき 事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター（2007～2021） 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			



科 目	作家作品研究	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならないキーワードを選び、映像などを通して体感し、文化表現の広がりと深さを把握する。		
到達目標	必要なキーワードを、実際の作品を通して体感し、社会における文化表現の全体像を大づかみに知る。前期では主にジャンルを学び、後期には特徴的な表現形態を学ぶ。		
学習成果の 評価基準	文化芸術史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
16 .	オペレッタ その1	オペレッタは笑う	
17 .	オペレッタ その2	オッフェンバック	
18 .	ミュージカル その1	タップダンスの時代	
19 .	ミュージカル その2	振付師の時代	
20 .	映画 その1	サイレントの時代	
21 .	映画 その2	トーキーの時代	
22 .	能・狂言 その1	将軍と芸能	
23 .	能・狂言 その2	悲劇と喜劇	
24 .	歌舞伎 その1	町人と芸能	
25 .	歌舞伎 その2	鶴屋南北「東海道四谷怪談」	
26 .	文楽 その1	世界に冠たる人形芝居	
27 .	文楽 その2	近松門左衛門	
28 .	民俗芸能・大衆芸能 その1	祭りと放浪	
29 .	民俗芸能・大衆芸能 その2	共同体とはぐれ者	
30 .	まとめ	期末レポートを書く。	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の 評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、期末授業内レポート40%		
特記すべき 事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター（2007～2021）		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	作家作品研究	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならないキーワードを選び、映像などを通して体感し、文化表現の広がりと深さを把握する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	必要なキーワードを、実際の作品を通して体感し、社会における文化表現の全体像を大づかみに知る。前半では主にジャンルを学び、後半には特徴的な表現形態を学ぶ。		
学習成果の 評価基準	文化芸術史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	演劇の神 ディオニュソスの陶酔 その1	「悲劇の誕生」と「悲劇の死」	
2 .	演劇の神 アポロンの明晰 その2	西欧芸術の源流	
3 .	ギリシャ演劇 その1	「オイディプス王」	
4 .	ギリシャ演劇 その2	「アンチゴネー」	
5 .	シェークスピア その1	古典中の古典「ハムレット」	
6 .	シェークスピア その2	恋愛のお手本「ロミとジュリ」	
7 .	コメディア・デラルテ その1	台本なしの即興仮面劇	
8 .	コメディア・デラルテ その2	ハーレクインもピエロも	
9 .	バロック その1	オペラとバレエ	
10 .	バロック その2	人生は夢	
11 .	ロココ その1	雅なる宴	
12 .	ロココ その2	人生は遊戯	
13 .	ロマン主義 その1	彼方へのあこがれ	
14 .	ロマン主義 その2	古典形式への反発	
15 .	それぞれの特徴を考えてみよう	中間のまとめ	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の 評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、授業内レポート40%		
特記すべき 事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター（2007～2021） 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科目	作家作品研究	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならないキーワードを選び、映像などを通して体感し、文化表現の広がりと深さを把握する。		
到達目標	必要なキーワードを、実際の作品を通して体感し、社会における文化表現の全体像を大づかみに知る。前半では主にジャンルを学び、後半には特徴的な表現形態を学ぶ。		
学習成果の評価基準	文化芸術史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	自然主義 その1	第4の壁?	
17.	自然主義 その2	ニセモノと本物	
18.	リアリズム その1	自然と現実はどう違う?	
19.	リアリズム その2	米国はリアリズム演技がお好き	
20.	演出家の時代 その1	内面のスタニスラフスキー	
21.	演出家の時代 その2	外面のメイエルホリド	
22.	モダニズム その1	近代化する社会の芸術	
23.	モダニズム その2	資本主義と文化芸術	
24.	映画 その1	複製技術時代の到来	
25.	映画 その2	娯楽か芸術か?	
26.	表現主義 その1	印象派は視覚、表現主義は内面	
27.	表現主義 その2	「カリガリ博士」	
28.	シュールレアリスム その1	超現実主義	
29.	シュールレアリスム その2	潜在意識の世界	
30.	演劇からパフォーマンスへ	近代の終わり	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、期末授業内レポート40%		
特記すべき事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター（2007～2021）		
質問・相談等の受付			

科目	読書と豊かな人間性	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	豊かな人間性を育てる読書生活のために、発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。また、「言葉」による表現で読書に親しむための実技を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(3)に対応する。		
到達目標	発達段階に応じた読書の違いに振れ多様化する読書資料の活用ができるようになる。また、絵本の選定や読み聞かせの手法を学び、コミュニケーションを取りながら人前で読み聞かせができるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標にしている、発達段階に応じた読書資料の活用の達成度及び絵本の読み聞かせの実技、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	読書の意義と目的について	なぜ読書をしなければならないのか考える	
2.	読書能力の発達について	さまざまなリテラシーについて考える	
3.	読書興味の発達について	発達段階によつての読書を考える。	
4.	読書興味の発達段階について	就学時までの読書について考える	
5.	読書興味の発達段階について	小学低学年についての読書を考える	
6.	読書興味の発達段階について	小学校高学年についての読書を考える	
7.	読書興味の発達段階について	中高校生以上の読書を考える	
8.	読書の導入的な指導	環境整備について考える	
9.	読書体験表現・交流について	自分の読書体験について考える	
10.	公共図書館と学校図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携について考える	
11.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（1）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
12.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（2）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
13.	絵本の読み聞かせを実演し、読み手と聞き手の関係性を学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う	
14.	絵本の読み聞かせを実演し、絵本のめくり方、間の取り方、終わり方などを学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う	
15.	授業総括	講義を振り返り人間性を育てる読書について考える	
教科書	『新版読書と豊かな人間性』朝比奈大作ほか / 放送大学教育振興会		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度（10%）定期試験（60%）授業内発表（30%） 到達度確認テストを実施後、フィールドバックします。		
特記すべき事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。絵本セラピストとしての実務経験を有しています。予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	基礎演習	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(8)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	読み合わせ	台本を読んでおく	
2 .	読み合わせ	台本を分析する	
3 .	読み合わせ	台詞を覚える	
4 .	読み合わせ	台詞を覚える	
5 .	立ち稽古	香盤表を確認する	
6 .	立ち稽古	ミザンスを確認する	
7 .	立ち稽古	ミザンスを確認する	
8 .	立ち稽古	ミザンスを確認する	
9 .	立ち稽古(5)	ミザンスを確認する	
10 .	立ち稽古(6)	ミザンスを確認する	
11 .	通し稽古	演出ノートを確認	
12 .	通し稽古	演出ノートを確認	
13 .	通し稽古	演出ノートを確認	
14 .	衣装合わせ	役の衣裳を考える	
15 .	衣装合わせ	着こなしを考える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科 目	基礎演習	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(8)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1.	照明合わせ	立ち位置の確認	
2.	照明合わせ	照明に入る	
3.	照明合わせ	照明に入る	
4.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第一段階)	
5.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第二段階)	
6.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第三段階)	
7.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第四段階)	
8.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第五段階)	
9.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第六段階)	
10.	舞台稽古	役と役の交流を考える(第七段階)	
11.	上演	成果発表後ノートをつける	
12.	上演	ノートを元に修正する	
13.	上演	ノートを元に修正する	
14.	上演	ノートを元に修正する	
15.	まとめ	振り返り	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		